



“地域のことは地域で考えよう”

2019年4月26日

## おきぎん県内景況・速報

2019年3月

—県内景況は、拡大している—

### ■個人消費

スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。

百貨店売上高は前年同月を上回る。

家電卸出荷額は前年同月を下回り、新車販売台数は上回る。

### ■建設関連

公共工事請負金額は前年同月を下回る。新設住宅着工戸数は上回る。

生コン、セメントはともに前年同月を下回る。

### ■観光関連

入域観光客数は前年同月を上回り、観光施設入場者数も上回る。

ホテル稼働率は、ビジネスホテルが前年同月を上回り、シティホテル、リゾートホテルは下回る。

ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)は下回る。

### ■企業倒産

件数、負債総額はともに前年同月を下回る。

## 現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2019年3月分)

◎2019年3月 おきぎん「カトレア」景況図



◎概況：県内景況は、拡大している。

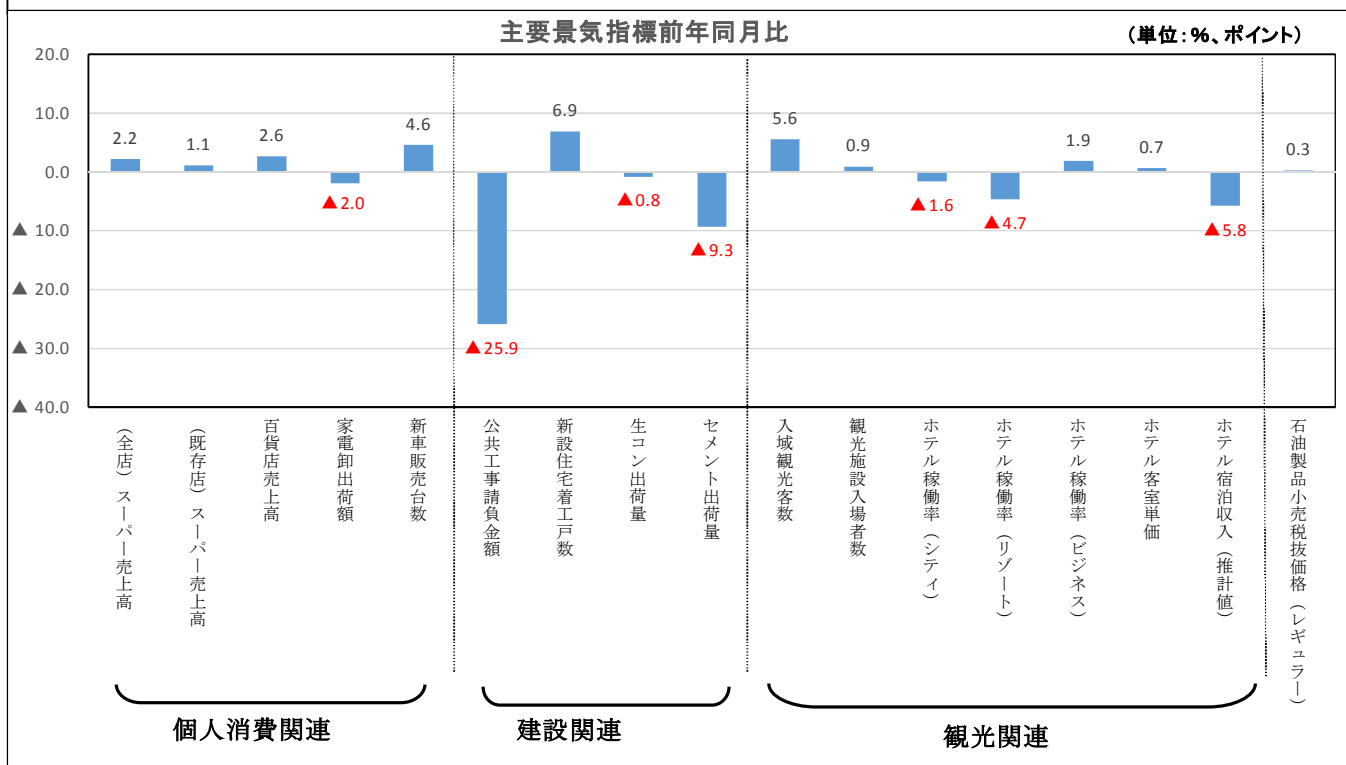
3月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回りました。百貨店売上高も、前年同月を上回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、前年同月を下回りました。新車販売台数は、前年同月を上回りました。

建設関連では、公共工事請負金額は、国や沖縄県などによる発注工事の減少などで前年同月を下回りました。新設住宅着工戸数は前年同月を上回り、建設資材である生コン、セメントはともに下回りました。

観光関連では、入域観光客数は6ヵ月連続で前年同月を上回り、観光施設入場者数も前年同月を上回りました。ホテル稼働率はビジネスホテルが前年同月を上回り、シティホテル、リゾートホテルは下回りました。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)は下回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費や建設関連が概ね堅調であり、観光関連では堅調な動きが継続していることなどから「県内景況は拡大している」と景気判断を据え置きました。

(2014年2月の上方修正後から62ヵ月連続で判断維持)



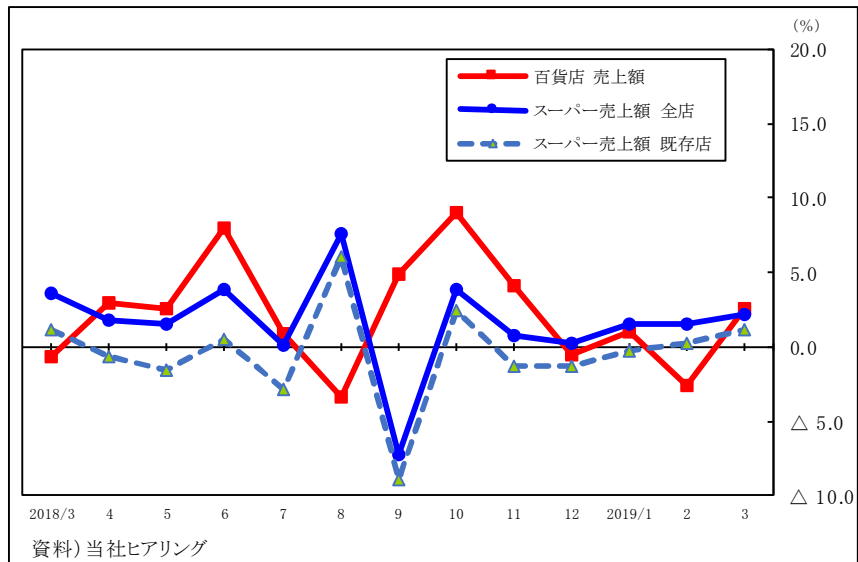


■個人消費： (やや良い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。百貨店売上高は前年同月を上回る。

単位：%

	スーパー売上額		百貨店
	全店	既存店	売上額
2018/3	3.6	1.2	△ 0.6
4	1.8	△ 0.7	3.0
5	1.6	△ 1.5	2.6
6	3.8	0.5	8.0
7	0.1	△ 2.9	0.9
8	7.6	6.1	△ 3.3
9	△ 7.2	△ 8.9	4.9
10	3.9	2.4	9.0
11	0.8	△ 1.3	4.1
12	0.3	△ 1.3	△ 0.5
2019/1	1.5	△ 0.3	1.0
2	1.6	0.2	△ 2.6
3	2.2	1.1	2.6



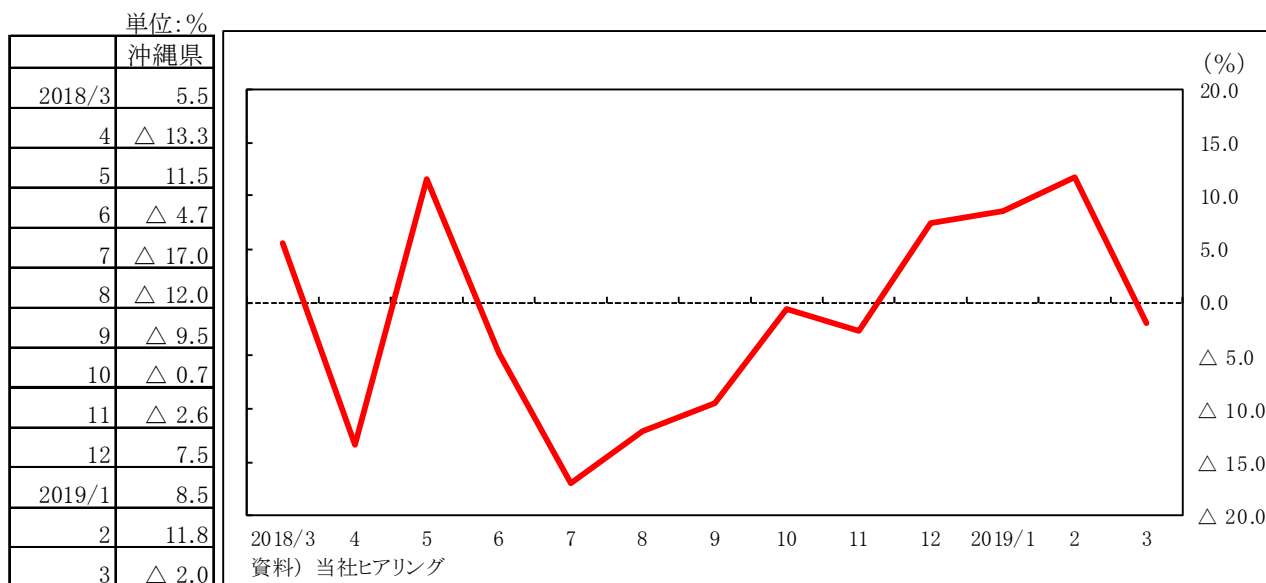
注) 前年同月比

3月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比 2.2%増)」は、新規出店効果などにより、「食料品(同 2.2%増)」、「家庭用品(同 2.9%増)」、「衣料品(同 0.1%増)」など、全般的に売上が伸び、6ヵ月連続で前年同月を上回りました。

「既存店ベース(同 1.1%増)」は、2ヵ月連続で前年同月を上回りました。品目別では、ウェイトの高い「食料品(同 1.0%増)」は、前年に比べ日曜日が1日多かったことから、生鮮食品を中心に全般的に売上が伸び、前年同月を上回りました。また、「家庭用品(同 1.9%増)」は、洗濯機、冷蔵庫、エアコン等の家電や、雑貨(化粧品・小物)の売上が伸び、前年同月を上回りました。「衣料品(同 0.1%増)」は、気候の影響がみられたものの、春物商材等の売上が伸び、前年同月を上回りました。

百貨店売上高は、物産展などが好調だったことから、2ヵ月ぶりに前年同月を上回りました(同 2.6%増)。内訳をみると、ウェイトの高い「衣料品(同 11.7%減)」は、前年好調だった販促企画の開催が、4月に後ずれしたことにより、「紳士服(同 8.2%減)」、「婦人服(同 15.0%減)」、「子供服(同 15.3%減)」などで春物商材の売上が伸び悩み、前年同月を下回りました。靴、バッグなどの「身の回り品(同 15.8%減)」は、売り場面積が縮小したことなどから売上が減少し、前年同月を下回りました。一方、「食料品(同 20.4%増)」、「家庭用品(同 39.9%増)」は、物産展の売上が好調だったことから、前年同月を上回りました。また、「雑貨(同 7.8%増)」は、売り場のリニューアル効果などにより、前年同月を上回りました。

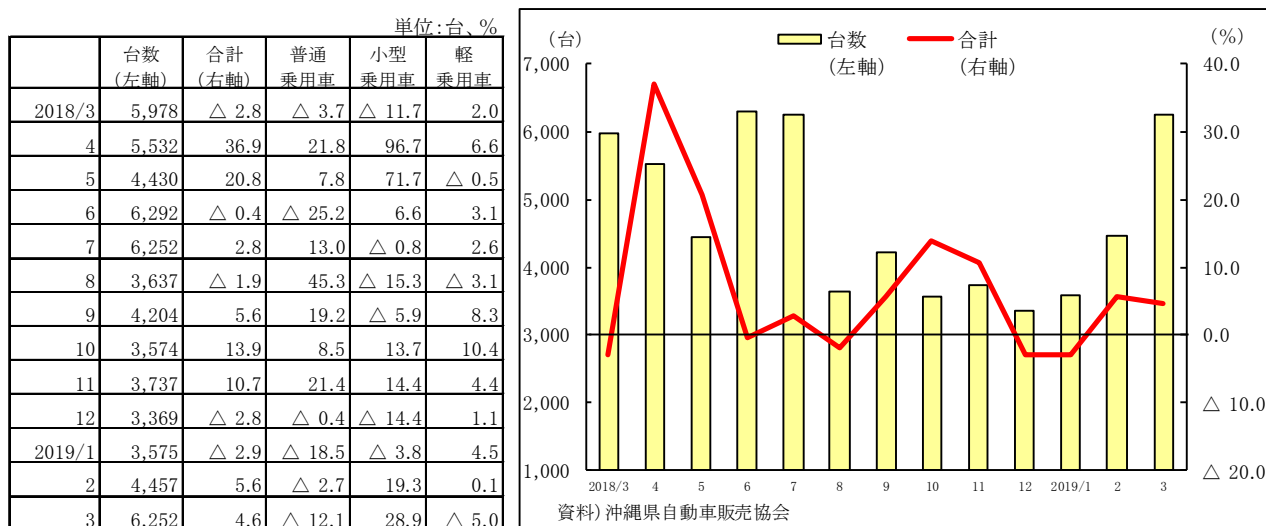
② 家電卸出荷額…家電卸出荷額は4ヵ月ぶりに前年同月を下回る。



注) 前年同月比

家電卸出荷額は、テレビや太陽光パネルの売上が伸びず、4ヵ月ぶりに前年同月を下回りました(同2.0%減)。品目別では、「冷蔵庫(同14.8%増)」、「洗濯機(同22.3%増)」、「エアコン(同5.1%増)」は、新設需要および買い替え需要が好調だったことから、前年同月を上回りました。一方、「テレビ(同8.1%減)」、「太陽光パネル(同56.2%減)」は、売上が伸びず、前年同月を下回りました。

③ 新車販売台数…新車販売台数は、2ヵ月連続で前年同月を上回る。



注) 前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

新車販売台数は、全体で6,252台(同4.6%増)となり、2ヵ月連続で前年同月を上回りました。車種別では、「普通乗用車(同12.1%減)」、「軽乗用車(同5.0%減)」は、自家用車需要が低調だったことから、普通乗用車は4ヵ月連続、軽乗用車は7ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。一方、「小型乗用車(同28.9%増)」は、レンタカー需要が増加し、2ヵ月連続で前年同月を上回りました。

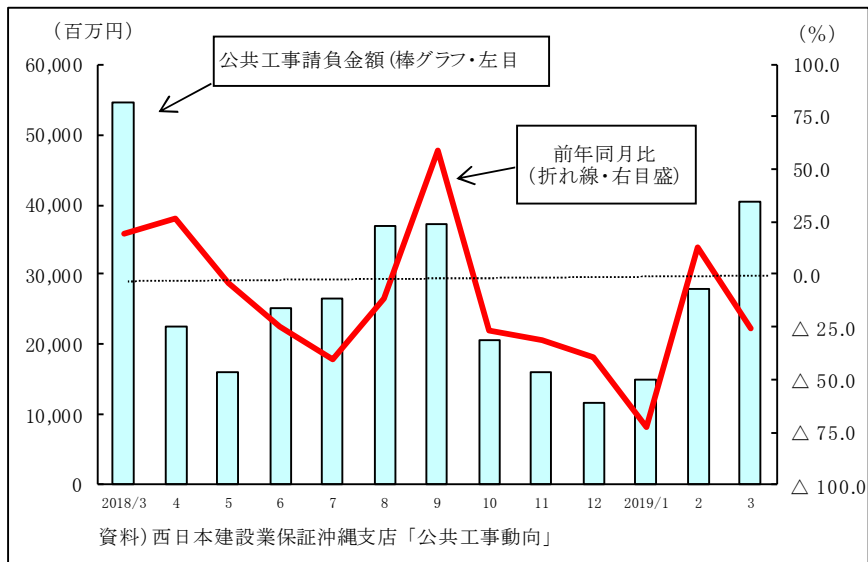
※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

■ 建設関連：  (良い)

①公共工事・・・公共工事請負金額は前年同月を下回る。

単位:百万円、%

	請負金額	前年同月比
2018/3	54,532	19.7
4	22,513	26.3
5	16,134	△4.5
6	25,324	△24.9
7	26,729	△40.6
8	36,794	△11.5
9	37,192	59.2
10	20,558	△26.8
11	16,031	△30.7
12	11,613	△39.7
2019/1	14,944	△72.6
2	27,833	12.8
3	40,417	△25.9

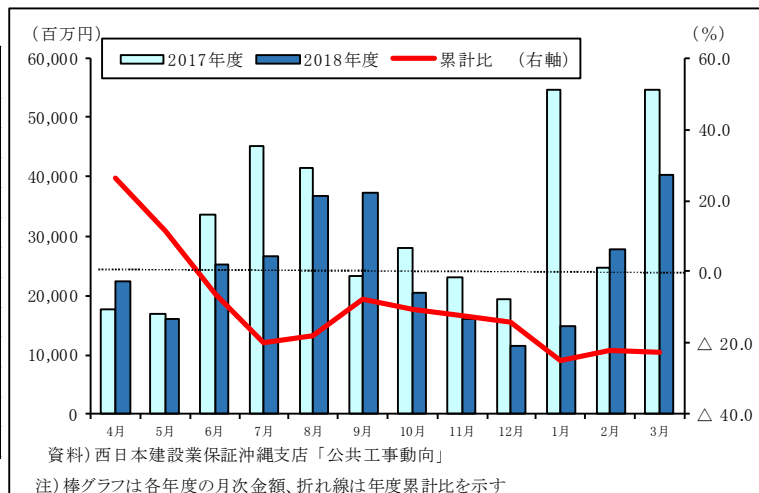


3月の公共工事請負金額は、前年同月比 25.9%減の 404 億 1,700 万円となりました(2ヵ月ぶり減)。発注者別でみると、「国(同 51.0%減)」のほか、「独立行政法人等」や「沖縄県(同 6.8%減)」は前年同月を下回りました。一方で、「市町村(同 17.2%増)」や「その他の公共的団体(同 375.1%増)」は上回りました。

【参考】公共工事（年度累計）・・・公共工事請負金額は前年同期を下回る。

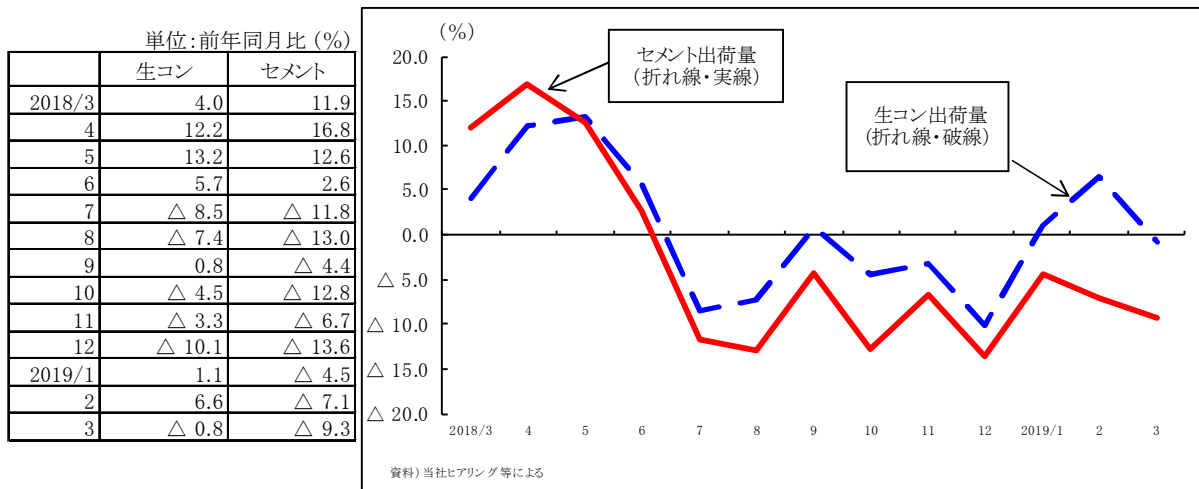
単位:百万円、%

	2017年度	2018年度	累計比 (右軸)
4月	17,823	22,513	26.3
5月	16,886	16,134	11.3
6月	33,703	25,324	△6.5
7月	45,031	26,729	△20.0
8月	41,576	36,794	△17.8
9月	23,363	37,192	△7.7
10月	28,073	20,558	△10.3
11月	23,134	16,031	△12.3
12月	19,275	11,613	△14.5
1月	54,569	14,944	△24.9
2月	24,674	27,833	△22.1
3月	54,532	40,417	△22.6



今年度累計値では、22.6%減となっています。(上記折れ線グラフ)

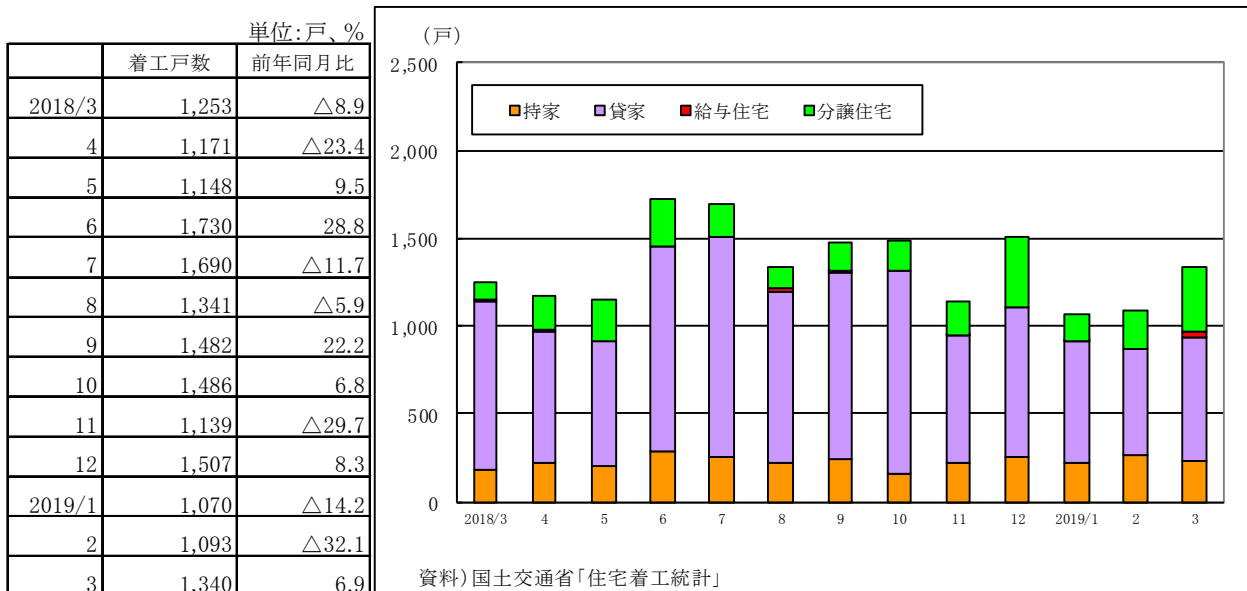
②建設資材・・・生コン、セメントはともに前年同月を下回る。



(注1) セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

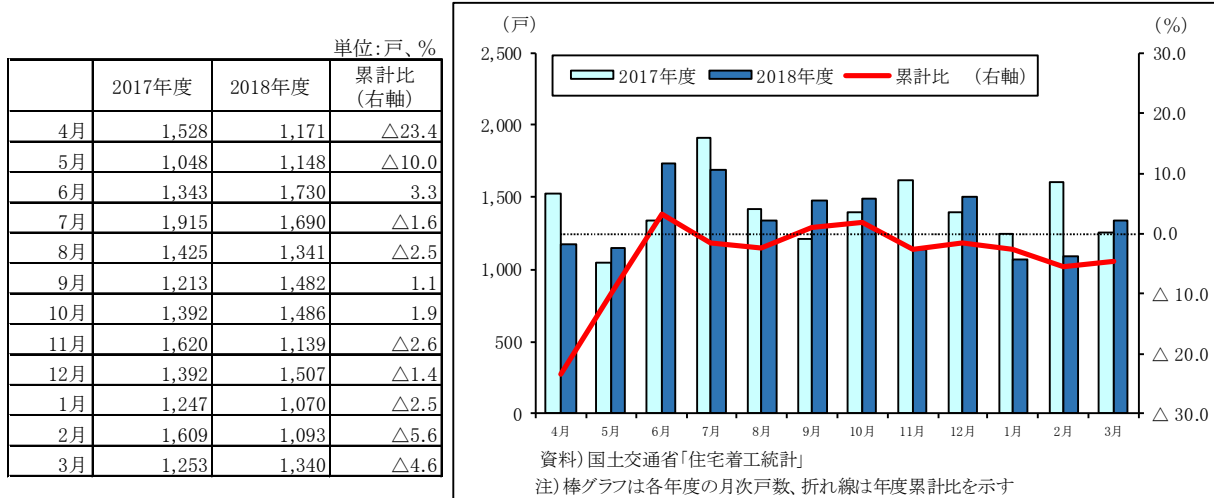
**建設資材関連**では、**生コン**の出荷量は0.8%減と3ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。内訳では、公共工事向け出荷が前年同月より17.6%上回り、民間工事向け出荷は8.3%下回りました。**セメント**出荷量は9.3%減と9ヵ月連続で前年同月を下回りました。

住宅投資・・・着工戸数は前年同月を上回る。



**新設住宅着工戸数**は、全体で前年同月比6.9%増の1,340戸と3ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。利用別戸数を見ると、ウェイトの高い「貸家(同26.4%減)」は前年同月を下回りましたが、「持家(同27.6%増)」や「給与住宅(同440.0%増)」、「分譲住宅(同254.3%増)」は上回りました。

住宅投資（年度累計）・・・3月までの着工戸数は前年同期を下回る。

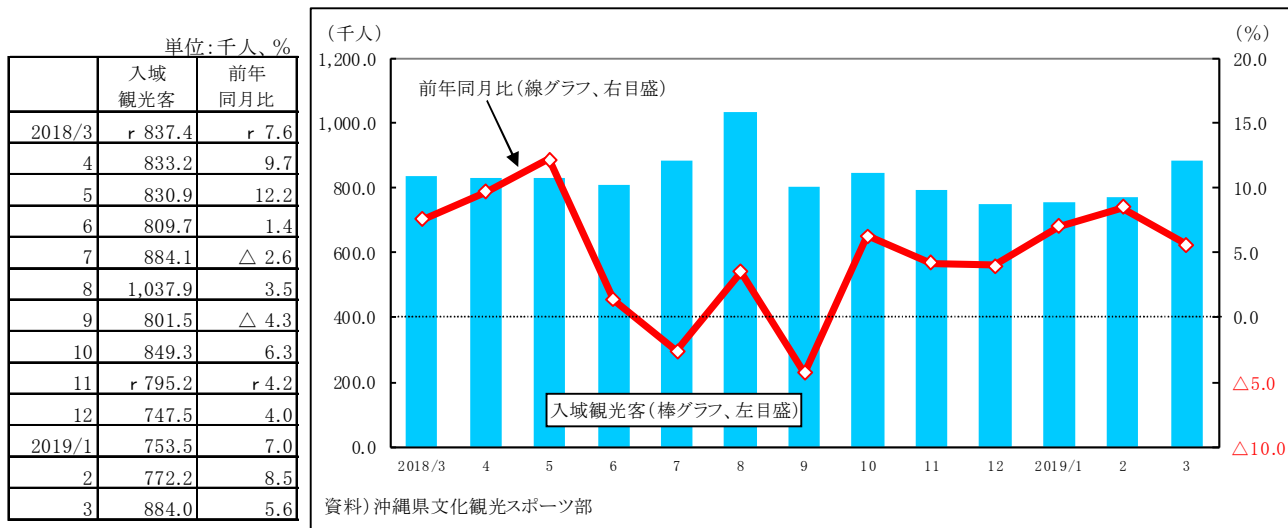


年度累計で見ると、3月までの累計値で4.6%減となっています。



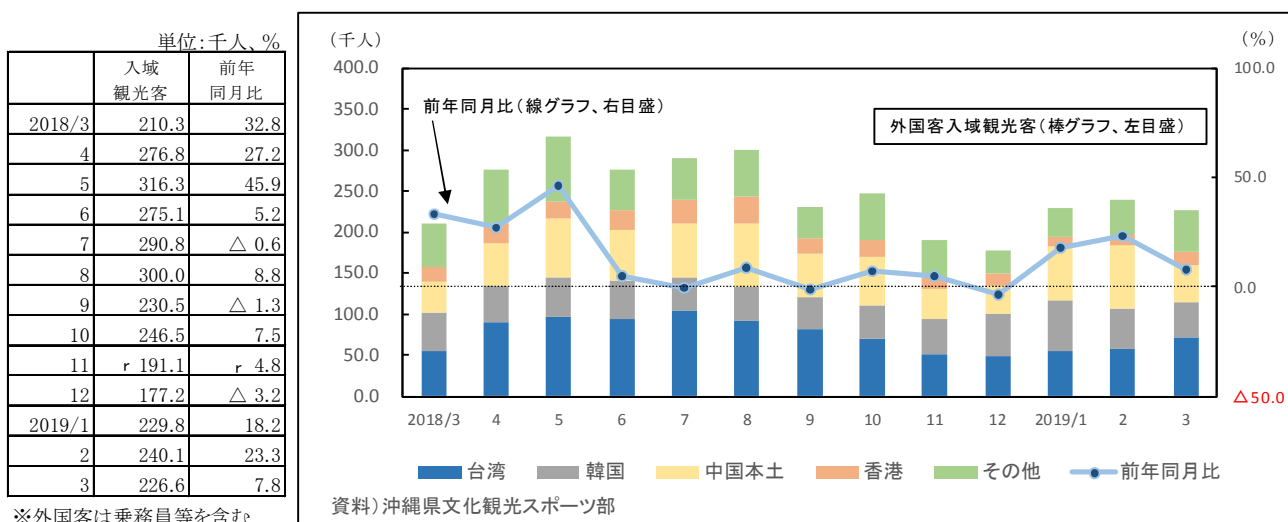
## ■観光関連： (やや良い)

### ①入域観光客数 (国内客・外国客の合計)・・・6ヵ月連続で前年同月を上回る。



※外国客は乗務員等を含む

### 外国客 入域観光客数・・・3ヵ月連続で前年同月を上回る。



※外国客は乗務員等を含む

3月の入域観光客数は、46,600人多い884,000人(前年同月比5.6%増)となり、6ヵ月連続で前年同月を上回りました(3月としては過去最高)。

内訳をみると、「国内客(同4.8%増)」は657,400人と、春休みの旅行需要の高まりがあったことや、各航空会社の提供座席数の増加があったこと等から、6ヵ月連続で前年同月を上回りました。

他方、「外国客(同7.8%増)」は、226,600人と3ヵ月連続で前年同月を上回りました。航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港回数増加などにより、前年同月を上回りました。

「台湾(同31.2%増)」「韓国(同10.2%減)」「中国本土(同26.0%増)」「香港(同16.8%減)」

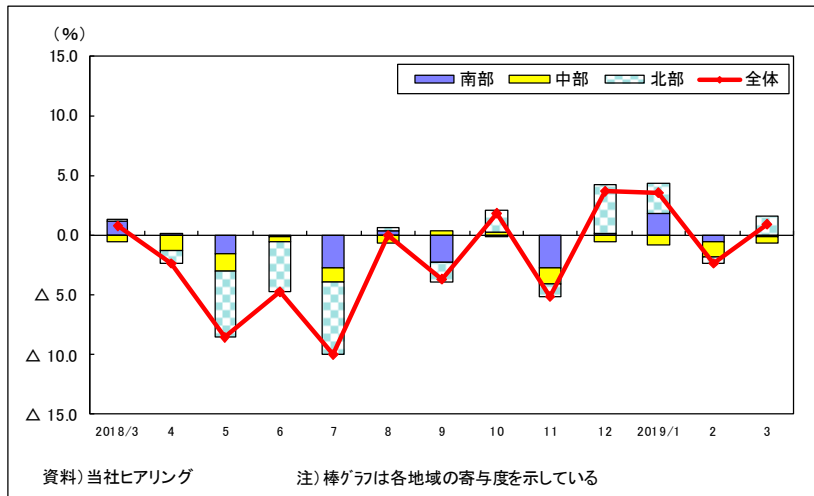
※乗務員等を除く2019年3月実績＝全体853,700人(同4.7%増)、外国客196,300人(同4.4%増)、国内客は変わらない。



② 観光施設入場者数・・・2ヵ月ぶりに前年同月を上回る。

単位: %

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2018/3	r 0.7	r 2.7	△ 4.8	r 0.4
4	r △ 2.4	0.1	△ 10.7	r △ 2.4
5	r △ 8.6	△ 4.0	△ 12.7	r △ 11.7
6	r △ 4.8	△ 0.5	△ 4.6	r △ 8.3
7	r △ 10.0	△ 7.8	△ 12.2	r △ 11.0
8	r △ 0.1	1.0	△ 6.5	r 0.5
9	r △ 3.7	△ 5.9	3.2	r △ 3.4
10	r 1.9	△ 0.6	2.3	r 3.9
11	r △ 5.2	△ 6.1	△ 11.3	r △ 2.4
12	r 3.6	0.1	△ 4.3	r 9.8
2019/1	r 3.5	4.2	△ 6.1	r 5.8
2	r △ 2.5	△ 1.4	r △ 11.5	r △ 1.2
3	0.9	△ 0.4	△ 4.7	3.4



※調査対象施設数=南部6、中部5、北部4施設

※2019年1月より、中部の対象施設数に変更(6⇒5)となったことから、2018年1月以降の数値を遡って改定した。

※2019年3月より、北部の対象施設数に変更(5⇒4)となったことから、2018年3月以降の数値を遡って改定した。

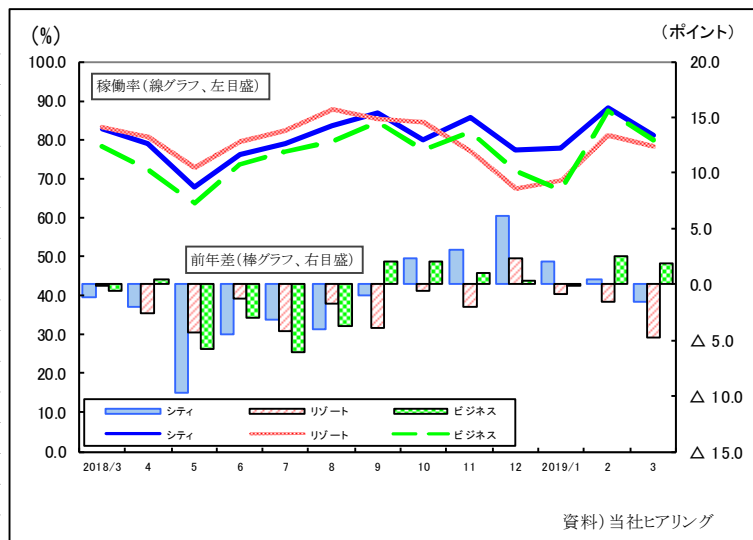
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

観光施設入場者数は、全体で前年同月より0.9%増加(2ヵ月ぶり)しました。地域別にみると、北部にある観光施設は同3.4%増と2ヵ月ぶりに前年同月を上回り、南部は同0.4%減と2ヵ月連続、中部は同4.7%減と5ヵ月連続で前年同月を下回りました。

③ ホテル稼働率・・・ビジネスホテルは前年同月を上回り、シティホテル、リゾートホテルは下回る。

単位: %、ポイント

	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2018/3	82.8	r 83.1	r 78.1	△ 1.2	r △ 0.1	r △ 0.5
4	78.9	80.5	r 72.5	△ 2.0	△ 2.6	r 0.4
5	67.9	72.9	r 63.5	△ 9.7	△ 4.3	△ 5.8
6	76.0	79.5	r 73.8	△ 4.5	△ 1.3	r △ 3.0
7	79.0	82.4	r 76.8	△ 3.2	△ 4.2	r △ 6.1
8	83.5	87.9	r 79.6	△ 4.1	△ 1.7	r △ 3.7
9	87.0	85.4	r 84.3	△ 1.0	△ 3.9	r 2.1
10	79.9	84.4	r 77.3	2.4	△ 0.5	r 2.0
11	85.5	76.9	r 82.1	3.1	△ 2.0	r 1.1
12	r 77.4	67.3	r 72.0	r 6.2	2.3	r 0.3
2019/1	r 77.9	69.6	r 67.0	r 2.1	△ 0.9	r △ 0.1
2	88.3	r 81.2	r 87.3	0.5	r △ 1.6	r 2.5
3	81.2	78.4	80.0	△ 1.6	△ 4.7	1.9



注) シティ8ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス6ホテル

注) 2019年3月より、ビジネスホテル対象施設数に変更(7⇒6)となったことから、2018年3月以降の数値を遡って改定した。

注) 2018年4月については、サンプル調査の都合上、ビジネスホテルは5ホテルとなっている。

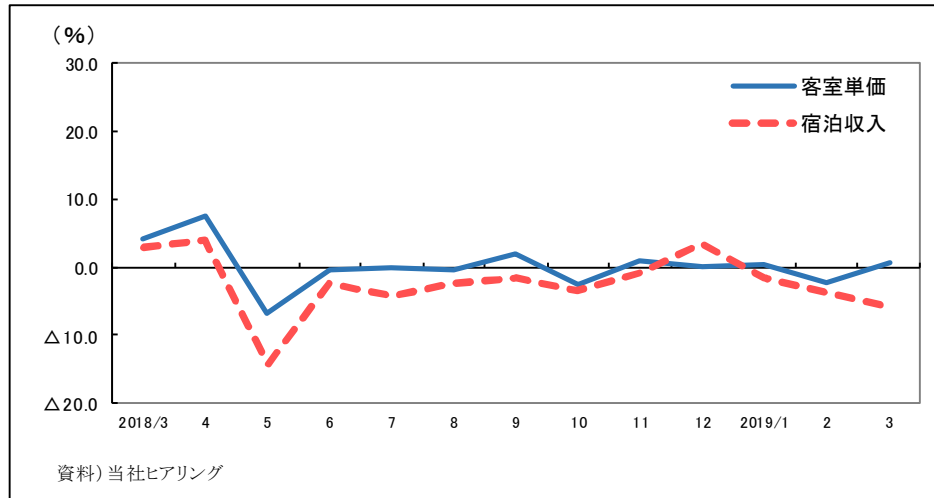
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが81.2%と1.6ポイント減少(6ヵ月ぶり)、リゾートホテルが78.4%と4.7ポイント減少(3ヵ月連続)、ビジネスホテルが80.0%と1.9ポイント上昇(2ヵ月連続)しました。

④ ホテル客室単価・宿泊収入・・・客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入は下回る。

単位: %

	客室単価	宿泊収入
2018/3	r 4.2	r 2.9
4	7.5	4.1
5	△6.7	△14.3
6	△0.5	△2.4
7	△0.1	△4.2
8	△0.5	△2.4
9	2.1	△1.6
10	△2.5	△3.5
11	0.9	△0.8
12	0.1	3.4
2019/1	0.3	△1.5
2	△2.3	△3.7
3	0.7	△5.8



※対象施設数: 26施設 (シティ8、リゾート18)、ビジネスは除く

※客室単価は26施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額 (稼働率及び客室単価より当社推計)

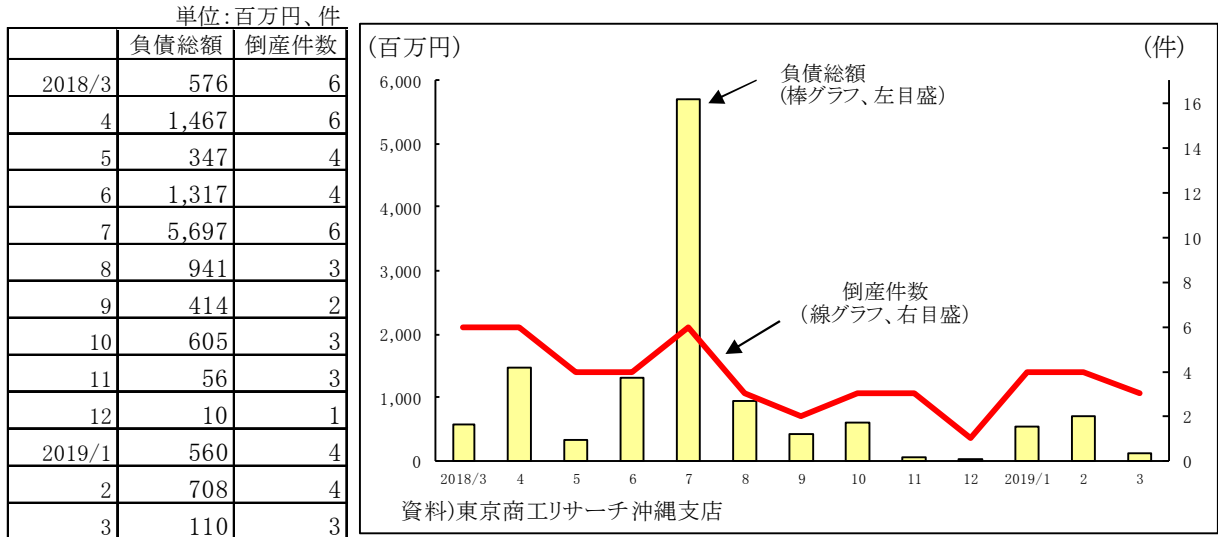
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

**ホテル客室単価**(シティ&リゾート)は前年同月比 0.7%増と前年同月を上回りました。**宿泊収入**は同5.8%減と前年同月を下回りました。



■企業倒産： (やや良い)

企業倒産・・・件数、負債総額はともに前年同月を下回る。

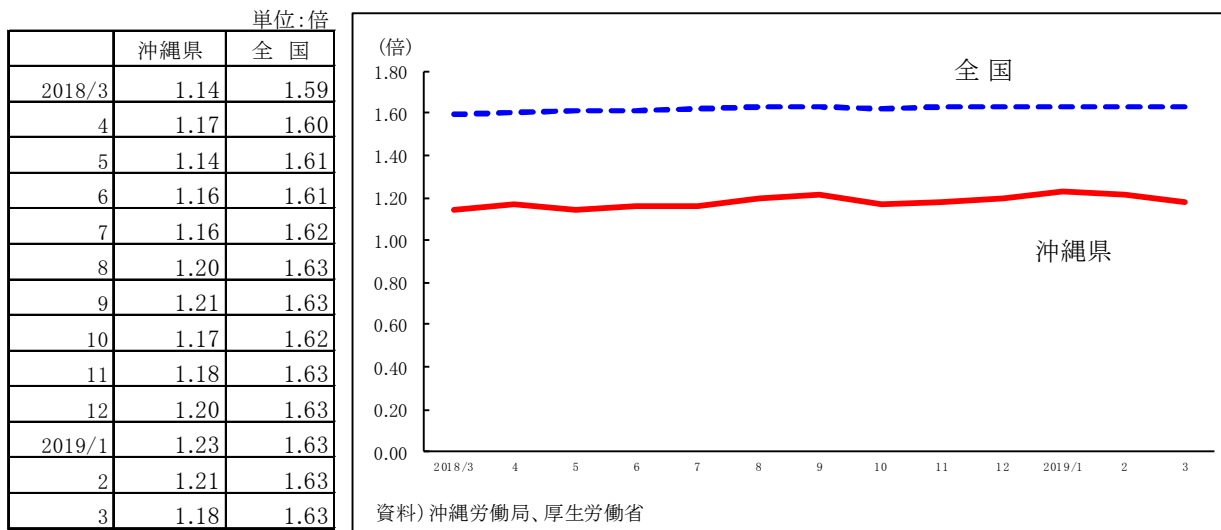


3月の企業倒産件数は、3件(うち大口倒産などは無し)となり、前年同月より50.0%下回りました。  
負債総額は1億1,000万円となり、前年同月より80.9%下回りました。



■雇用関連： (良い)

有効求人倍率・・・沖縄は前月より低下、全国は同水準。

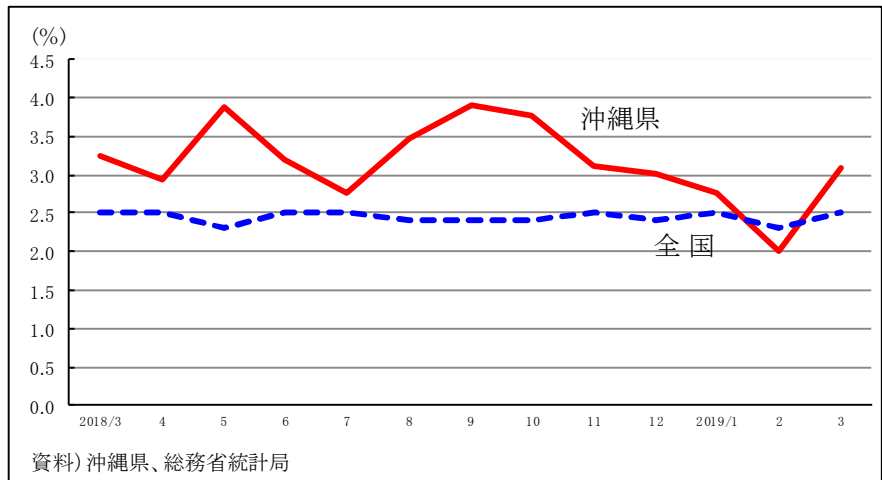


注) 季節調整済

3月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)は前月比1.5%減の30,097人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比0.8%増の25,444人となり、有効求人倍率(季節調整値)は1.18倍となり前月より0.03ポイント低下しました。

完全失業率・・・沖縄、全国はともに前月より上昇。

	単位:倍	
	沖縄県	全国
2018/3	3.2	2.5
4	3.0	2.5
5	3.9	2.3
6	3.2	2.5
7	2.8	2.5
8	3.5	2.4
9	3.9	2.4
10	3.8	2.4
11	3.1	2.5
12	3.0	2.4
2019/1	2.8	2.5
2	2.0	2.3
3	3.1	2.5



注) 季節調整済

3月の完全失業率(季節調整値)は、3.1%となり前月より1.1ポイント上昇しました。